

阿賀浦コミ協だより

平成26年7月28日
広報第16号
阿賀浦コミュニティ協議会

阿賀小学校・第五中学校・コミュニティ合同地震対応訓練実施

新潟地震発生から50年となる6月16日に、阿賀小学校・第五中学校で、地震を想定した「地震対応訓練」が実施されました。

1時02分地震発生を想定し、中新田、東金沢、大安寺では警報サイレンが一斉に流れ、阿賀浦地区民も地区自主防災会の誘導のもと阿賀小学校体育館へ避難。

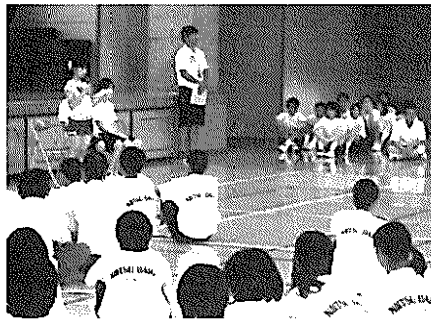
小学校では、グラウンドへ一時避難、津波警報発令を受け校舎3階へ、津波警報解除後体育館に避難といった内容で実施されました。その後、中学生たちが、二次避難場所とした中学校体育館へ小学生並びに地区民を誘導避難させました。



中学校体育館では、避難者の人数確認・報告等の訓練後、生徒数名による感想発表、藤田コミ協会長からは訓練講評等が行われ解散となりました。

訓練に参加して

児童代表 阿賀小学校 6年 小川日菜さん



新潟地震から、今日で五〇年たちました。私が、産まれるずっと前のことですが、道路はひび割れ、建物はたおれ、新潟市内の昭和大桥は、完成からわずか数日でくずれ落ちるほどの大きな地震だったと聞きました。さらに、恐ろしい津波も押し寄せたと聞きました。

地震はいつ起きるか分かりません。学校にいるとき、家に一人でいるとき、どこかへ出かけているとき、近くにだれかがいるとは限りません。私は、地震が起きたらどう行動するべきかを日ごろからしっかり考え、いざというときに大切な命をしっかりと守れるようにしていきたいです。

今日の訓練には、地域の方や中学生がかけつけてくださいました。どれほど心強かったことでしょう。三年前の東日本大震災の時、釜石市では、地域の方や中学生が、「こつちに逃げる！」と小学生に声をかけ手をつないで、小学生を安全な場所に避難させたそうです。同じ地域に住む人たちが心を一つにして、かけがえのない大切な命を守ろうとしていたことに心をうたれました。

自分の命は自分で守ることはもちろんですが、いざというときに、力を合わせて命を守る大切なことを学びました。私たちの住む、ふるさと阿賀も、みんなの命をみんなで守れるような温かい地域であり続けたいと願っています。

今日は、たくさんの方々に見守っていただきありがとうございました。

平成26年度の行事を紹介します。各大会その都度ご案内いたしますので、多くの参加を期待しております。

行 事	実 施 時 期	開 催 場 所
第8回ゲートボール大会	6月15日(日) 終了 優勝 大安寺	七日町ゲートボール場
第5回盆踊り大会	8月9日(土)	新津地域学園テニスコート脇駐車場 雨天の場合 同体育館
凧づくり体験と凧あげ	9月21日(日)	阿賀小学校体育館及びグラウンド
第8回ソフトボール大会	9月28日(日) 予備日10月5日(日)	第五中学校グラウンド 予備日の会場は阿賀小学校グラウンド
第6回芸能祭	10月19日(日)	五中体育館
第5回 フロア・カーリング大会	11月2日(日)	新津B&G海洋センター
史 跡 巡 り	11月8日(土)	次項史跡巡り情報参照 10月初旬詳細案内を予定
ドッチ・ビー大会	11月9日(日)	阿賀小学校体育館
第1回ボーリング大会 【新規】	2月下旬～3月上旬ごろ予定	五泉ファミリーボール
介 護 予 防 運 動 ① ロコモ体操講習会 ② ラジオ体操100日運動	毎月第一火曜日 10:00～12:00 継続実施中 認定証授与者 13名 (このうち3名は600日達成)	地域学園体育館 好評開催中 各家庭及び各種行事開催中
阿賀浦コミ協だよりの発行	7月・1月の年2回発行	

保 健 福 祉 部 より

《まず1歩 心と体の「健幸」づくり～あの世まで歩いて行こう1、2、3》
— 介護が不要な健康のうちから始めましょう —

自治会単位でのフロアカーリングを計画ご希望の場合担当までご一報下さい。

第5回盆踊り大会開催

《夏の一時を盆踊りでどうぞお楽しみ下さい!》

第5回阿賀浦コミ協、阿賀浦社会福祉協議会共催の盆踊り大会が下記のとおり開催します。

特別賞、仮装賞、全員に参加賞あります。子どもたちにはお菓子の用意もありますよ!

屋台村では、ビール、ジュース、フライドポテト、焼き鳥、かき氷、水ヨーヨーなどを用意!

※開催にあたり新潟市の補助金をいただいています。



記

1. 日 時 平成26年8月9日(土) 午後6時から8時30分まで
2. 会 場 新津地域学園テニスコート脇駐車場 雨天の場合 新津地域学園体育館

平成26年度 史跡巡りにあたり

歴史を訪ねるとして、ご好評の史跡巡り。今まで市外での史跡巡りでしたが、今年は、足元の歴史学ということで、八幡山遺跡や新潟県埋蔵文化財センターをはじめ、秋葉区とその近郊の遺跡、史跡を訪ねる旅を予定しています。

岡三郎さんからこの旅の目的、その史跡の意味するところなどでご寄稿いただきましたので、ご紹介します。

遺跡が語ってくれるもの

岡 三 郎

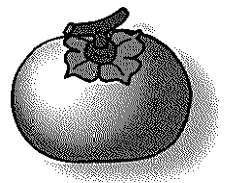
私たちの祖先は、何時頃からこの地に住んだのであろうか、誰しもがこうした疑問を抱いていると思う。こうした点を解き明かす方法として、これまで伝えられて来たのが古文書（昔の書き物）であり、古老たちの話であった。そして、最近では「遺跡調査」というのが盛んに行われるようになって、更に詳しく学問的にも深められるように拡がっている。

今は亡き、古津の小川重蔵氏が熱っぽく語ってくれた日があった。古津の寺前堤のほとりの道を歩いて登った先に小高い丘があった。ここが八幡山とあって、昔は八幡様が祀ってあったんだ、という。そして、この山の杉木立の間から彼が指さした先には「新津自動車学校」があった。“あそこが「新津城」で、この地は「八幡山城」。新津城の出城だんだ”と。戦が始まると出城が重要になる、ここは新津城にとって重要な場所だったんだ。成程、足元の丘の南側には深さ三、四メートル程の堀跡らしいものがある。丘の上の広さは五〇メートル位か。彼の説明は淡々として説得力があった。今から五〇年程前の話である。彼は、上越・板倉の出身で国鉄に勤務、結婚して古津に住んだ。郷土史には造詣が深かった。

この話を聞いた頃であった。金津地域に「農用地開発事業」というのが始まったのは。蒲ヶ沢、古津、東島などの山手を開発して、八珍柿の用地造りというのが行われることになったのである。

+++++

（八珍柿というのは「ひらたねなし」、「たねなしがき」ともいわれる渋柿で、種がないのに殖えるのは珍妙だと、真鸞聖人が残された越後七不思議にも匹敵するいわれと「八珍柿」と名付けられた、という。原木は、秋葉区古田の川崎榮作さん方にあり新潟県の文化財に指定されている。渋を抜くのも容易で味がよく、旧新津市では、「推奨の木」にされていた。）



+++++

この事業は、約十八ヘクタールの山地を開発して四千本の八珍柿を植栽し、名物にしようというもので昭和四十九年に完工を見た。この工事の始まった頃のこと、蒲ヶ沢の箱岩さんという方をはじめとして金津地区の何人かの人たちから「かなくそ」と呼ばれる「鉄滓」が持ち込まれた。柿団地造成の中から出たものという。

金津という地名は古くから記録されている処であったから、私どもの地域についても郷土史の上では、昔は「金津の庄」といわれたのだと記録がされている。既にして金津という村は、今から一千年も前から存在していたと思われるのである。

昭和六〇年代のはじめ頃、折しも磐越高速道の設置論が起り、実現が話題として新津を通る法線が明らかとなるや、この道路作成に必要な土砂を金津の山の土を利用しては、という意見が偶々議会の中で持ち上がったという。

高速道路新設と、新津地域の開発行為という、いわば一挙両得とでもいえるような事態が、単なる

話題としてではなく、本格的な問題として持ち上がって来たのであった。

当時の市当局は、土砂供給という名目上ではなくて「総合運動公園計画」を実現するために開発行為を行うのであって、その土砂を磐越道の盛土用として供給するというのであった。

この歴史的ともいえる大事業ではあったが、昭和四十八年（1973）に設置された「文化財調査審議会」が、この開発行為に「異」を表明したのであった。発足間もない文化財調査審議会であったが、この地域には八幡山城址と伝えられる地があることや、柿団地造成事業のなかで「鉄滓」が出てきていること、或いはまたアスファルト遺構が見られるなどなど、多くの異議を挙げたのである。

だが、市の総合運動公園計画は次第に進められて昭和六十二年（1987）には、具体化のために遺跡調査が行われるに至った。

遺跡調査は七年にも及ぶもので、この調査の結果、これまで城址と伝えられていた「八幡山城跡」は県内最大級の古墳（円墳）である可能性が高いとされたほか、その隣接する丘陵からは弥生時代後期と目される防御的な「高地性環濠集落」の跡や「前方後方周溝墓」などが続々発見されるに及んだ。また、作業の途中では「烽火台」遺構とも思われる焼土坑や住居址なども発見され、壮大な遺跡・遺構と評価されるに及び、市の計画は大幅に縮小されることになったのである。



これらの金津地区の遺跡については、平成十九年十月に行った阿賀浦コミ協の史跡めぐりの際に石油遺構などと共に訪れたのだが、たまたまその折には竪穴住居が火災に遭ったりして現地を訪れることが叶わなかった。

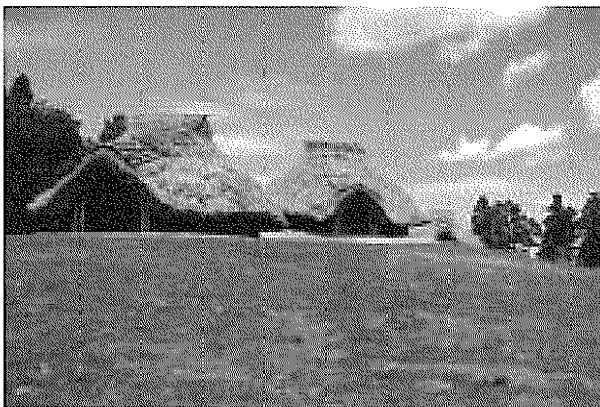


前方後方周溝墓

いま、私どもの地域でも公共工事が行われる度ごとに「遺跡調査」というのがついて廻ってくる。我々が住んでいる平野部の村や地形も、かつては全く想像もつかない形にあったのかも知れない。そのことが、これ迄行われてきた圃場整備や都市計画などの工事の際の調査の中で意外な事として明らかにされて来ている。

例えば、今は田圃である処に建物の痕跡があったり、畑の畝の形が現れたり、川の流れの状態が意外な場所に残っていたりして、つまり遺跡は多くの事を現代に語ってくれているのだ。

旧新津市が計画した総合運動公園計画は、その後計画変更されて、「花と遺跡のふるさと公園」となり、古津八幡山遺跡は「国指定遺跡」となった。製鉄遺跡のあった付近一帯は「フラワーランド」として市民憩い場になり、公園内には「新津美術館」が設けられ、「新潟県埋蔵文化財センター」と共に、文字どおり花と遺跡のセンターに化している。



復元した竪穴住居



大安寺「菊好会」について



大安寺菊好会 会長 樋口 国彦

大安寺菊好会が正式に発足したのは、昭和62年からという。それ以前にも同好の人たちの集まりはあったらしいのだが、新津旻香会の会員になっておられた赤塚正一郎さんが中心になって、この会の発足を見たと言われている。

新津旻香会というのは、歯科医をされておられた小林徹雄先生というお方、多才な方で菊花の実生づくりなどもされる程の熱心な人、この方が中心になって設立されたと聞く。そうした影響もあってか新津では菊花づくりが盛んに行われて来た。毎年、堀出神社境内に十一月の半ば過ぎごろまで展示されて人々の関心を集めている。

大安寺菊好会は、そうした流れを汲んでか、会員同士が挿し穂や新芽を譲りあったり、競技花の選定や共同購入をしたりしてお互いに競いあっている。

秋のうちに落葉を集め腐葉土を作り、春には田の土を集めてこれに合わせて土造りに励む。苗の成長の過程では、施肥や病虫害の駆除、鉢の植え替など話し合いを交換している。

特に花の期が近づいてくると蕾ならぬ柳芽といわれるのが出たりするものだから、一年の仕上げだけに注意して秋の作品展を待つ。

毎年の展示は、集楽センターを会場にして百点余の菊花が並び、香り高く四圍を明るくしてくれる。ただ、展示期間が短いという批判も耳にするが、この後に盛岩寺の「達磨忌」に展示する計画もあったりして難しい。

それと、芸術的な面での交流はお互いにやっているけれど、専門的な講師の話も聞きたいという意見もある。近年、われわれの地域だけでなく機運も高まっていることでもあり、是非コミ協などでこうした催しも考えて頂けたらと思っている。

菊花は中国から入って来たといわれ、初期のころは薬用として重宝がられてもいたらしく、紋章としても昔から一般に重用されたいが、大正末期からは、皇室専用と決められるなど、私用禁令となっているのだという。

キクは鞠または鞠とも書き、鞠は窮に通じて花の内では最後に咲く花という意味もあるから大切にしたいものである。



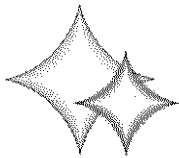
(大安寺集楽センターに飾られた作品)

【花言葉など】

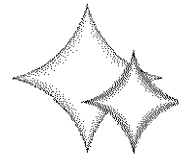
花言葉は一般的には「高尚」と「高貴」。白は「誠実」、「貞操」、赤は「あなたを愛します」濃菊は「私を信じて下さい」黄色は「おぼろげな思い出」とのこと。

菊の種類は路地や庭での「乱れ咲き」や精魂こめて作った「大輪の花」千差万別です。日本では、「白菊、青菊、乱菊、雛菊など」日常生活から生まれた優雅な言葉がたくさんあります。

なお、皇帝のご紋章は十六重弁の菊花だそうです。



阿賀小学校を地域の宝に!



阿賀小学校PTA会長 長崎 忍

この春、僥越ながら阿賀小学校PTA会長を拝命しました。務めるに当たり私なりに3つの目標を立てました。1つは、学校を「花いっぱい」にする運動を始める。2つ目は、自らの生命を自ら守る「防災教育・訓練」を実施する。3つ目は、多くの保護者参加による「PTA活動の活発化」に取り組むです。

ここでは、最初の「花いっぱい運動」について、込めた想いと既に始まっている取り組みについてご紹介します。

1. 花いっぱい運動の始まり

きっかけは、2年前の阿賀小学校開校30周年の記念事業の企画を話合っていた時でした。卒業生だったある保護者から、開校時は花に囲まれた学校だったことが語られました。出来たばかりの学校で転校するのも不安だった気持ちを、親たちが植えた花々が出迎えてくれたと思っていたと。それをヒントに学校の周囲を何度も歩き、その当時のように出来ないかと考えて実施したのが「明後日朝顔」プロジェクトという取り組みでした。保護者・先生・児童が春から取り組み、式典の秋まで半年を掛けて学校の壁を鮮やかに飾りました。

呼応するように地域の方々からも協力の申し出があり、学校木の剪定・伐採や玄関前の花壇の草取りなど、一緒に30周年を向かえる機運を感じることができました。引続くように、昨年には保護者・先生による親たち有志の会「やろてばの会」が立ち上がり、側溝の泥上げや桜や藤棚の枝の伐採を行い。今年春からは、あが山のセイダカアワダチソウ駆除と芝桜植樹を始めています。

2. 10年20年後を見据えて

「やろてばの会」では、年2~3回学校周辺の清掃活動を行い、終了後に反省会と称した飲み会をしています。普段は話す機会の無い親たちが集まり、子どもや学校・仕事や趣味などを、お酒の力も借りて活発に意見交換しています。

気になる話題は子どもの減少と、先々の学校・地域の縮小です。今年は1・6年生が2クラスですが、来年の新入生からはずっと1クラスだそうです。仮に阿賀小学校が統廃合されたら、残った施設や樹木はどうなるのだろう。この地域自体も、と春からの不安は尽きません。せめても開校時の姿に戻せれば、かつての親・保護者が再び集まると念じつつ、「花いっぱい」に取り組んでいます。嬉しいことに、学年行事で6年生から校門脇の花壇に花を植えていただきました。雑草駆除に石拾い、肥料を混ぜての土作りなどを約1ヶ月前から準備され、今では綺麗な花々が玄関口を彩っています。時間はかかっても、「念ずれば花ひらく」(阿賀小学校体育館に掲示)の願いを少しずつカタチにしていきたいと思えますので、皆さまのご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。

— 芝桜を植える学校法面 —



親たちが植えた花々が出迎えてくれたと... (This text is part of the main body text and is not repeated here for brevity, as the image is already described.)

編集後記

7月中では過去最大級と言われる台風8号。この台風、そして梅雨前線の影響による大雨で、秋葉区では避難勧告発令、そして地域学園他で避難所が設置され、避難された方々があつたということでした。過日実施の「合同地震対応訓練」の成果がでたのではないのでしょうか。

阿賀小学校の五中側法面の芝桜植栽運動など地域の絆そして連携・協力体制の動きが進んでいるように感じます。がんばれ!「阿賀浦コミ協」。「地域力を向上しよう!」

広報部 一同